

チャレンジ・サザンセット！活力みなぎる農林水産業の創造

柳井農林水産事務所だより

発行：山口県柳井農林水産事務所
〒742-0031
柳井市南町三丁目9-3
TEL 0820-25-3290(代表)
FAX 0820-25-3297

葉物野菜の大規模な 水耕栽培が開始されました

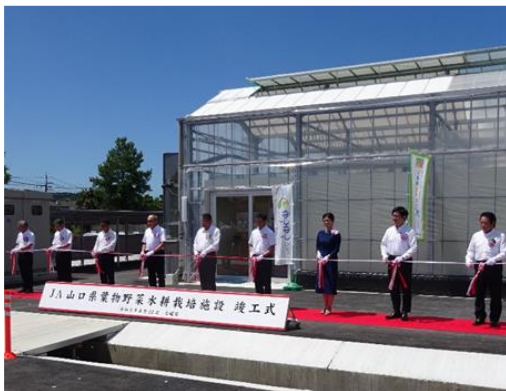
柳井市余田にて、「(株)トクヤマゆうゆうファーム」がリーフレタスの大規模生産をスタートさせました。

同ファームは、障がい者の雇用機会の創出を目指し、県内の総合化学メーカー「(株)トクヤマ」と山梨県の農業法人「(株)サラダボウル」が共同出資し、令和3年に設立された会社です。

施設は、数年前までバラ農園だった遊休施設を活用し、JA山口県が国の交付金を活用して水耕栽培施設を整備し、同ファームにリースしたものです。総事業費は約11億円で、栽培や収穫をするエリアの東棟と播種や育苗をするエリアの西棟からなり、施設面積は約1.5haです。

栽培方法は生育に応じて株間を拡げながら、自動で収穫ゾーンまで移動するムービングガターシステムを採用し、通常の水耕栽培に比べて単位面積当たりの植付本数が多くなり、年間約500万株の生産を目指しています。

生産物は、全量を(株)サラダボウルが買い取り、今後、西日本各地に出荷される予定です。当事務所では、円滑な営農ができるよう支援して参ります。



竣工式典・
施設見学会の様子

7月25日に柳井地域農林水産業・農山漁村振興協議会が開催され、柳井地域の新たな農林水産業振興の指針となる「柳井地域農林水産業・農山漁村振興計画」が策定されました。計画期間は令和5年度から8年度までの4年間で

振興計画では、農林水産業の担い手の安定的な確保とともに、生産性向上や需要拡大に資するデジタル技術の普及・定着、環境負荷の低減に向けた新技術の導入等を進め、「生産性と持続性を両立した強い農林水産業の育成」を目指すこととしています。

具体的には、①成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成、②柳井地域農林水産物のさらなる需要拡大、③需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立、④産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化の4つの柱に沿って取組内容を体系化し、市町、農林水産業団体、農林水産事務所などが協働して各種取組を進めていきます。

(施策体系図はP8に掲載)

「柳井地域農林水産業振興計画」が策定されました

「朝ごはん」に地場産野菜を
食べようチャレンジ」を
実施しました

柳井・大島「地産・地消」推進
会議では、地場産野菜の地産・地
消を推進するため、会議の構成団
体である柳井地域学校栄養士研
修会と連携して、管内の全小・中
学生を対象に「夏休み朝ごはん
に地場産野菜を食べようチャレ
ンジ」を実施しました。

このチャレンジは、夏休み期間
中に、各家庭で、朝ごはんに野菜
を取り入れていただき、食べた野
菜と産地を記帳していただくも
ので、383名の児童・生徒のみな
さんが取り組んでくださいました。
多数の感想をいただきました。
ので、一部をご紹介します。

- ・おやさいがもつとすきになりました。(小2)
- ・やさいがこんなにおいしいなん
て知りませんでした。(小3)
- ・地元の野菜がこんなに食べられ
て幸せだなと思いました。(小5)
- ・おじいちゃんが畑で野菜をたく
さん育てているので、毎日新鮮な
野菜を食べることができました。
(中3)

・毎朝の食卓に地場産野菜を出す
ように心がけることができ、親に
とってよいチャレンジでした。
(小2保護者)

・産地表示を見る習慣ができてま
した。地元産の野菜を見つけると安
心できます。これからも意識して
いきたいと思えます。(小4保護
者)

・買い物の際も産地をチェックし
たり、「これは柳井産だよ。」と言
いながら家族でおいしく食事を
する時間が持てて、親子ともよい
体験になりました。(小2保護者)
・野菜を作られた方のことを思
い、感謝しながら食事をするこ
とができました。(小6保護者)

取組の趣旨をご理解いただき、
ご協力いただいたご家庭の皆様
に感謝申し上げます。

引き続き、地域
の農産物を意識し、
日々の食卓に取り
入れていただくこ
とを願っています。



地産・地消推進拠点施設が
2店舗誕生しました

柳井・大島地域「地産・地消」
推進会議では、やまぐちの農林水
産物需要拡大協議会と連携して、
地産・地消推進拠点の開設に取り
組んでいます。

7月26日に、田布施町の「松田
生花店」が、県産花きを積極的に
販売する小売店として「花きの販
売協力専門店」に仲間入りしまし
た。

また、8月7日には、柳井市の
「たまごつちや」が、県産農水産
物を積極的に利用する飲食店と
して「やまぐち食彩店」に仲間入
りしました。

これにより、柳井・大島地域の
「花きの販売協力専門店」は12
店舗、「やまぐち食彩店」は29店
舗となりました。

当事務所では、今後も、拠点と
連携して、地産・地消を推進する
とともに、地元農林水産物の需要
拡大に取り組んでいきます。

管内の地産・地消推進拠点の情
報は、下記QRコードから閲覧す
ることができます。ぜひご利用く
ださい。



ガイドブック閲覧用
QRコード



「やまぐち食彩店」開設



「花きの販売協力専門店」開設

周防大島町のホテルに「農業女子コーナー」が開設されました

7月2日、片添ヶ浜海浜公園の一角に「マリッツサリゾートサザンセット周防大島」がオープンし、館内ショップに「農業女子コーナー」が開設されました。コーナーでは、柳井・大島地域農業女子会（以下、農業女子会）メンバーのうち6農園の17商品が販売され、好評を博しています。

同ホテルは今年3月、やまぐち農林漁業ステキ女子（※）の活躍の場を共に創出し、協力、補完し合いながら新たな活動に取り組み「やまぐち農林漁業ステキ女子応援団」に登録されました。

農業女子会では、6月5日にホテル関係者と「コラボ活動検討会」を実施して活動のアイデアを出し合い、最初の取組として「農業女子コーナー設置と情報発信によるPR」を開始することとしました。

今後は、ホームページやSNS等を通じて情報発信を行うとともに、次の活動に向けて検討を重ねることとしています。



ホテル館内「農業女子コーナー」の様子



「コラボ活動検討会」の様子

当事務所では、今後も、柳井・大島地域の若手女性農林漁業者の経営発展に向けた取組を支援して参ります。

柳井大島地区農業士会 研究会を開催しました



「やまぐち農林漁業ステキ女子」のシンボルマーク

※やまぐち農林漁業ステキ女子…経営発展に向けた実践活動に取り組む若手女性農林漁業者。

柳井大島地区農業士会では、毎年、地域の担い手育成をテーマに研究会を実施しています。

本年度は、JA山口県周防大島青壮年部と共催で、広島県尾道市瀬戸田町の大規模かんきつ栽培農園と、JA全農ひろしま直売所「とれたて元気市 広島店」の視察を行い、周防大島町の新規就農者等との意見交換会も行いました。

大規模かんきつ栽培農園の視察では、5.5haのかんきつ経営を25人で管理されている現地を視察し、栽培管理の工夫や仕立

て方などを研修しました。JA全農ひろしまの直売所では、農産物PR用のPOP作成、消費者へのイベント広告など、販売額アップのための様々な工夫を研修しました。

新規就農者等との意見交換会では、新規就農者等から、「大規模かんきつ栽培農園のほ場の工夫を学ぶことができた」、「視察したことを自分の経営にどう取り入れていくか考えていきたい」、「主幹形、双幹形について学ぶことができて勉強になった」等の発言がありました。



直売所での研修の様子



大規模かんきつ栽培農園の視察の様子

農業士からは、地域農業の指導的立場から、「新規就農者の方には儲かる農業というのを考えていただきたい」、「立場関係なしに情報交換していくことが重要でこのような機会があるとよい」、「視察等には積極的に参加される方がよい」等の意見があり、互いに交流を深めました。当農業士会では、今後も地域の担い手育成の支援に取り組んで参ります。

納所ため池の改修工事が完成しました

田布施町大字上田布施に位置する納所ため池は、老朽化が著しく、堤体からの漏水等により豪雨時に堤体が決壊し、下流の農地や水路、民家に被害を及ぼす恐れがありました。このため、下流農地等の被害を未然に防止するとともに、農業用水の安定的な確保を目的に、ため池改修工事を実施しました。

事業名：農村地域防災減災事業
(ため池整備事業)

事業主体：山口県柳井農林水産事務所

地区名：納所地区

事業工期：令和元年度～5年度

事業費：185百万円

事業概要：受益面積 16.3 ha

被害想定面積 20.5 ha

堤高 6.6 m

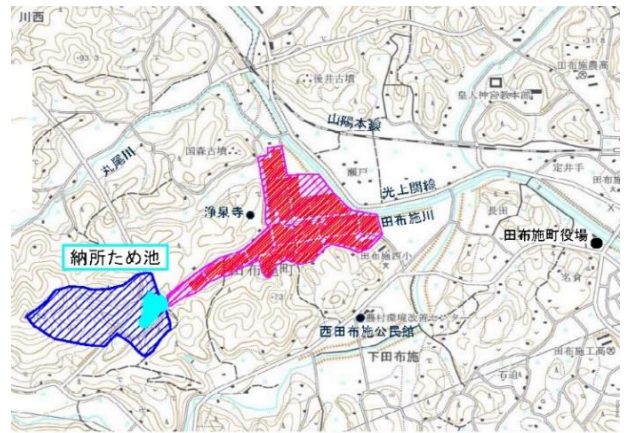
洪水吐 36.1 m

取水施設：緊急放流工一式

納所ため池の改修工事には約2ヶ年の工期が必要なため、債務負担行為により工事を発注し、令和3年10月工事に着手し、令和5年8月に完成しました。



完成した納所ため池を上流から撮影



位置図



完成した納所ため池の洪水吐



完成した納所ため池を下流から撮影

鳥獣害被害防止対策に山口型放牧の活用を!

今、農家の高齢化、担い手不足等により管内に耕作放棄地が増加しています。

畜産部では、耕作放棄地を解消し農地を守るために、山口型放牧を推進しています。

山口型放牧とは、生産条件が不利な水田、耕作放棄地などを電気牧柵で囲い、牛を放牧する方法です。生い茂った雑草を牛に食べってもらうことにより、重労働である草刈から解放されるとともに、農地の復元や隣接する農地の獣害被害低減効果も認められています。

畜産部では、牛の飼養経験のない方でも山口型放牧が実施できるように、放牧牛や電気牧柵の貸出制度の活用のほか、職員が牛の管理や電気牧柵の設置に係る指導を行っています。

本年度は、6月から7月にかけて柳井市日積地区の耕作放棄地で放牧を実施しました。耕作放棄地が解消されるとともに、近隣の保育園の園児や近隣の住民が牛を見に来るなど、地域のなかで交流が生まれる契機にもなりました。

山口型放牧に興味のある方は畜産部(☎0820・22・2416)まで気軽にご相談ください。



珍しそうに牛を眺める園児たち(日積)



もりもり草を食べる放牧牛(日積)

令和5年度山口県東部地区高病原性鳥インフルエンザ等家畜防疫演習を開催しました。

近年、毎年のように高病原性鳥インフルエンザが猛威を振るい、前年度シーズンは26道県84事例171万羽が殺処分され、卵価が高騰したことも記憶に新しいと思います。

そこで、発生農場等の防疫作業従事者への準備体制を円滑に整備することを目的に、令和5年10月23日T A I K Oスポーツセンター田布施において、柳井農林水産事務所管内の養鶏場で発生した場合を想定して防疫演習を実施しました。東部地域の農林水産事務所職員、健康福祉センター、警察、市町職員、畜産関係団体等で132名の参加となりました。

午前中は、家畜伝染病が発生した場合に、必要となる集合基地、仮設基地、消毒ポイントの設営実習を行いました。午後からは、集合基地、仮設基地、消毒ポイントの各班に分かれて、実地演習を行いました。集合基地においては、動員者の受け入

れ、健康調査、農場への送り出し、作業終了後仮設基地から帰還した、動員者の帰宅までの対応、仮設基地においては、集合基地から移動してきた動員者の受け入れ、作業準備、動員者が作業を終えてから、集合基地へ移動するまでの対応の実演、消毒ポイントにおいては、飼料を運搬する畜産関係車両の消毒作業等の実演を行いました。

実演終了後は、総合討議を行い、今後の対応の資としました。当事務所としては、今後も家畜伝染病が万一発生した際に、迅速に対応できるように万全の準備をしていきます。



集合基地(防護服の着用)



消毒ポイント



仮設基地(帰還動員者の受け入れ)

野鳥が死んでいるのを見かけたら

これから冬の渡り鳥が飛来する季節になります。死亡した野鳥を見つけたら、鳥インフルエンザを疑う人もいるかもしれませんが、ほとんどが別の原因(建物や車との衝突、エサ不足による衰弱など)で死亡したものと考えられます。理由は鳥インフルエンザに感染しやすい野鳥は限られているからです。

感染しやすい野鳥はハクチョウやオシドリなどの一部のカモ類、ハヤブサ、オオタカ、カイツブリ、ユリカモメなどです。

また、県が死亡野鳥を回収して鳥インフルエンザウイルスの検査を行うのは、鳥の種類や死亡数が検査の基準に該当する場合のみになります。詳しい内容は山口県(自然保護課)のホームページをご覧ください。

このため、死亡野鳥を発見しても、県に通報していただく必要はありませんが、不安な場合は森林部(岩国農林水産事務所森林部 ☎0827・29・1567)にお問い合わせください。

なお、死亡野鳥はビニール袋に入れてきちんと封をすれば、一般

廃棄物として処分できます。野生の鳥獣は様々な細菌や寄生虫を保持していたりするため、処分する際は素手で触らないようにするとともに、触った場合には十分に手を洗ってください。

「やまぐち森林づくり県民税」の紹介

山地災害の防止をはじめ水源のかん養、快適な生活環境の形成など森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、県民の皆様幅広く税負担をしていただき、次のような森林整備を行っています。

○荒廃した人工林の整備

【森林機能回復事業】

下草が枯れ、樹木の根が露出するような荒廃したスギやヒノキの人工林を強度に間伐し、水源かん養や山地災害防止等、森林の多面的機能の回復を図ります。

○繁茂した竹林の伐採

【繁茂竹林整備事業】

周辺の人工林や耕作地、生活環境等に支障を来す繁茂・拡大した竹林を伐採、再生竹の除去、樹木

の植栽を行い、自然林への回復を誘導します。

○市町の森林整備を支援

【地域が育む豊かな森林づくり推進事業】

中山間地域の元気創出や地域課題の解消のために市町が独自に取り組む多様な森林整備を支援します。

○森林ボランティア団体等を支援

【地域森林づくり活動強化対策事業】

県民の自主的な森林づくりを進めるため、活動に必要な資機材の購入や森林環境教育、体験交流活動を支援します。



森林機能回復事業



地域森林づくり活動強化対策事業

地域が育む豊かな森林づくり推進事業

繁茂竹林整備事業

「浜の母ちゃんのお魚料理教室」を4年ぶりに開催しました

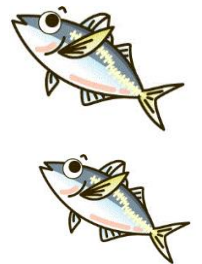
山口県漁協柳井地区女性部が、旬の地魚の魅力と調理方法を消費者に知ってもらおうと、9月10日に「浜の母ちゃんのお魚料理教室」を周防大島町で開催しました。地元で獲れた新鮮な海の幸を調理して試食するこのイベントは、「コロナ禍により長らく開催が見送られてきましたが、募集人数の制限や手指消毒の徹底といった感染対策を施した上で、今年度は4年ぶりに開催することができました。参加者は、講師である漁協女性部員から、骨を残さずに魚をさばく方法について手ほどきを受けるとともに、魚ごとにどの調理方法が美味しいか、解説を受けました。当日は地元で獲れたマダイやアジ等を使ったお刺身と手まり寿司、うしお汁を参加者全員で作りました。初めのうちは、参加者から「難しい」「上手くさばけない」といった声も聞かれましたが、講師からレクチャーを受けながら、次第に手際よく調理できるようになりました。

出来上がった料理は全員で試食



地元の新鮮な海の幸を使って楽しく調理

を行い、参加者からは「刺身がぷりぷりしていて、とても美味しい」、「また参加したい」といった声がかれました。



柳井地域農林水産業振興計画 施策体系

1 成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成

- (1)中核経営体の育成と経営基盤の強化
- (2)農林漁業新規就業者の確保・定着
- (3)農山漁村女性リーダー・やまぐち農林漁業ステキ女子の育成



いきいき営農塾

2 柳井地域農林水産物のさらなる需要拡大

- (1)地産・地消の取組強化
- (2)6次産業化・農商工連携の一体的な取組強化



漁業者グループによる直売所開設

3 需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の

確立

- (1)需要者ニーズに応える農畜産物の結びつき強化・生産拡大
- (2)木材供給力の強化
- (3)水産資源の適切な管理による漁業生産力の向上
- (4)安心・安全な農水産物の供給
- (5)防疫体制の強化
- (6)カーボンニュートラルに貢献する持続可能な農林水産業の推進
- (7)「山口型スマート技術」の現場実装の推進



食育授業



やまぐち和牛の育成

4 産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化

- (1)生産性を高める基盤整備
- (2)鳥獣被害防止対策の強化
- (3)農山漁村の持つ多面的機能の維持
- (4)防災・減災機能の強化



ほ場整備の推進



森林作業道の整備